



デジタル・マイ・タイムラインの普及について

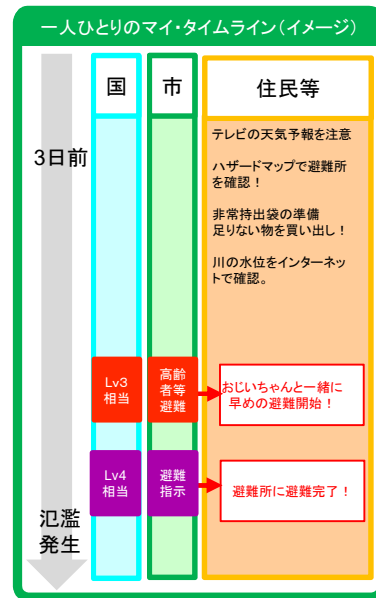
マイ・タイムラインとスマートフォンのプッシュ通知などデジタル技術の活用による避難行動支援

- 台風の接近時などに、「いつ」「何をするのか」を住民一人ひとりに合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画である「マイ・タイムライン」とスマートフォンアプリの防災情報のプッシュ通知機能などデジタル技術を融合。
- 地域のワークショップによる平時におけるマイ・タイムラインの検討の過程で、自宅の浸水リスクや逃げるタイミング等をスマートフォンに登録しておき、水害などの危険が迫った際には、自らが決めた避難のトリガー情報のプッシュ通知により、確実な避難行動を後押し。

マイ・タイムラインの作成 (従来からの取り組み)



地域のワークショップや学校の授業によるマイ・タイムラインの作成



マイ・タイムラインのイメージ

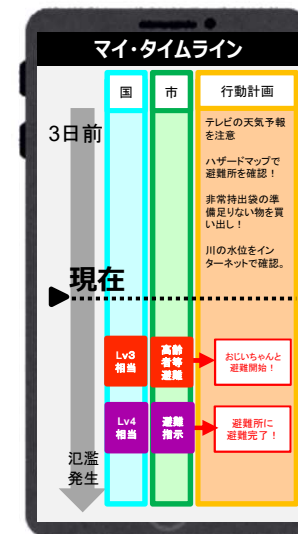
洪水ハザードマップによる地域の水害リスクの認識、家族構成や生活環境に合わせた避難のトリガー情報の検討や行動計画の作成を行う。

デジタル
技術と
融合

マイ・タイムラインに基づく行動をスマホで状況確認し、 避難のタイミング等をPUSH通知

マイ・タイムラインを
スマホに登録・状況確認

避難のタイミングで
プッシュ通知！



避難のトリガー等のマイ・タイムラインをスマホで作成。避難のタイミングになった際は、プッシュ型で情報を受信。

リスクコミュニケーションの活性化と防災情報のパーソナライズ化により、適切な避難行動を促進

「デジタル・マイ・タイムライン」プロジェクトの進め方

- 従来の「マイ・タイムライン」では、地域でのワークショップなどを通じて、災害時の行動を検討し、計画を紙にまとめる。新たに「デジタル・マイ・タイムライン」では、マイ・タイムライン過程での自分の災害時の行動を検討するプロセスは活かしつつ、スマートフォン等のデジタル技術を活用し、作成したマイ・タイムラインの実効性の向上を目指す。
- そのため、マイ・タイムラインの確認、行動トリガーのプッシュ通知機能などをもつ、民間企業の防災アプリを活用し、地域でのワークショップなどにより、有効性、課題などを整理。その結果を踏まえて、「デジタル・マイ・タイムライン」のスタンダードを提案し、民間企業のアプリ改良・開発を促すとともに、全国各地のワークショップで利用されるよう展開を図る。

成果イメージ

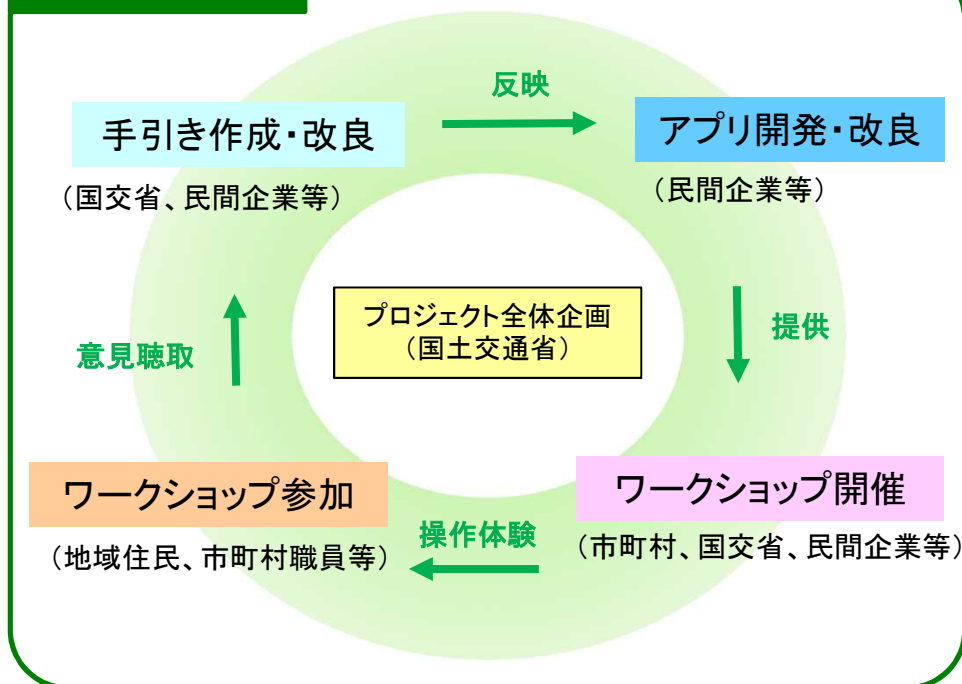
①「デジタル・マイ・タイムライン」の手引き

- ・アプリの必須機能、オプション機能
- ・アプリ開発上の留意点

②対応した民間アプリケーション

- ・必須機能を有するアプリ開発の促進
- ・データ提供など行政の役割の整理

プロジェクト体制



推進スケジュール

(令和3年度)

- ・民間企業によるアプリ開発
- ・ワークショップの実施(3箇所)
- ・ワークショップでの意見とりまとめ
- ・手引き(案)作成

(令和4年度)

- ・ワークショップの開催 (各地方整備局1箇所程度)
- ・ワークショップでの意見とりまとめ
- ・手引き 改良

令和3～4年度の取組状況(1)

民間企業によるアプリ開発



Yahoo!防災速報
ヤフー（株）



サトモリ
(株) NTTデータ

ワークショップの開催（令和3年度）

日時	場所	参加者	使用アプリ	備考
R3.11.21	茨城県常総市	地域住民	ヤフー防災速報	
R3.12.16	秋田県能代市	流域市町村 防災職員	ヤフー防災速報	
R4.1.29	長野県伊那市	地域住民	ヤフー防災速報	WEB開催



茨城県常総市でのワークショップの開催状況

令和3～4年度の取組状況(2)

ワークショップの開催（令和4年度）

日時	場所	参加者	使用アプリ	備考
R4.10.13	高知県四万十市	市職員	ヤフー防災速報	
R4.11.10	岡山県倉敷市真備町	地域住民	ヤフー防災速報	
R4.11.12	兵庫県小野市	地域住民	ヤフー防災速報	マイ・タイムライン講習会と同時開催
R4.12.9	佐賀県佐賀市	地域住民	ヤフー防災速報	
R5.1.16	北海道帯広市	減災対策協議会関係者	ヤフー防災速報	
R5.2.6	宮城県丸森町	地域住民	ヤフー防災速報	マイ・タイムライン講習会と同時開催
R5.2.25	岡山県倉敷市	防災士	NTTデータサトモリ	



岡山県倉敷市真備



佐賀県佐賀市

令和3～4年度の取組状況(3)

ワークショップの開催（令和4年度）

岡山県倉敷市真備 報道状況(RSK山陽放送)

(アナウンサー)

災害時に「自分が避難できるタイミング」や「避難場所」などを決めておく行動計画マイ・タイムライン。紙よりもいざと言うときに持ち出す習慣ができていたスマートフォンの中に保存することで、防災に生かして貰いたいと、中国地方整備局などが講座を企画しました。

(中国地方整備局 今井 浩二)

紙だと無くしたりとか、どうしても破れてしまう。これがデジタルだとスマホで「危険な状態が迫ったとき」に通知してくれる。そういったメリットを生かして、デジタル・マイ・タイムラインを広めていく活動をしておりま

(アナウンサー)

このアプリでは、スマホ上で地域のハザードマップを見た上で、自分に合ったタイムラインを考えることができます。更に必要な情報を入力すれば、実際に災害が迫ったときに、避難の通知が画面に表示されるようになっています。

参加した住民らは、デジタルならではのメリットを感じながらアプリの使い方を確認していきました。

(住民)

避難先は川辺小学校に設定しました。慌てているときに「どうやったかな」と思わなくても、これを見たら(事前に決めたことが)全部載っているからいい。

(アナウンサー)

中国地方整備局は、今後も岡山県内で、スマホを活用したデジタル・マイ・タイムラインを広める活動を続ける方針です。

令和3～4年度の取組状況(5)

ワークショップの開催（アンケート調査）

【アンケート集計結果の要点（1）】

- 約8割以上の参加者が「デジタル・マイ・タイムラインは役に立つ」と思っている。
その理由で多いものは次の4つである。
 - ・マイ・タイムラインをスマートフォンで作成できるから
 - ・避難のタイミングを自動で知らせてくれるから
 - ・避難の準備のタイミングを知らせてくれるから
 - ・防災情報を確認できるから
- デジタル・マイ・タイムラインで有効と思った機能で、回答が多いものは以下の4つである。
 - ・防災タイムラインを作成し、保存する機能
 - ・自宅の想定危険度をハザードマップで確認する機能
 - ・行動開始のタイミングを知らせてくれる機能
 - ・備蓄品リストを確認する機能
- 追加されると良いと思う機能で、回答が多いもの以下の4つである。
 - ・洪水予報や河川水位を避難や準備のタイミングとして登録する機能
 - ・家族や支援者とタイムラインを共有する機能
 - ・避難所までのルートを地図などで確認できる機能
 - ・雨雲レーダや河川の水位を表示する機能

令和3～4年度の取組状況(6)

ワークショップの開催（アンケート調査）

【アンケート集計結果の要点（2）】

- 自動的に通知（プッシュ通知）して欲しい情報で回答が多いものは以下の4つである
 - ・避難情報（緊急安全確保、避難指示、高齢者等避難など）
 - ・気象情報（大雨特別警報、大雨警報、洪水警報など）
 - ・指定河川洪水予報（氾濫発生情報、氾濫危険情報など）
 - ・河川水位情報（近くの川の水位が上昇したことを通知）

- デジタル・マイ・タイムラインを市民に普及する上での課題・留意点として考えられることで回答が多いものは以下の3つである。
 - ・スマホ等の操作が苦手な方への普及が課題
 - ・アプリの周知・PR方法
 - ・訓練方法（いざというときに正しく使えるか）

令和3～4年度の取組状況(7)

手引き(案)の作成(近日公表予定)

- 本手引きはマイ・タイムラインづくりで得られた知見や防災に関するさまざまな知見をもとに、タブレット端末やスマートフォンでも使用可能なアプリケーションをアプリ開発会社がデジタル・マイ・タイムラインアプリとして開発する際に備える機能として、必要最低限となる必須機能と、より使いやすくするためのオプション機能を解説。
- 令和3～4年度のワークショップでの意見等を踏まえ内容の改良を実施。

「デジタル・マイ・タイムライン」の手引き(案)

令和5年6月

国土交通省水管理・国土保全局

■ 必須機能(例)

- 警戒レベルと警戒レベル相当情報を説明する機能
- 自宅や避難先のリスクを確認する機能、避難に役立つ情報を確認する機能
- タイムラインの作成機能
- 作成したタイムラインを基にしたプッシュ通知機能
- タイムラインを用いた現状表示機能 など

■ オプション機能(例)

- 家族のマイ・タイムライン共有機能
- オープンデータを利用した情報入手機能、SNSによる情報収集機能
- 避難先へのナビゲーション機能、指定緊急避難場所の情報表示機能
- 位置情報から影響のある河川区間を検索して危険度をプッシュ通知する機能
- 防災学習機能
- 備蓄品・非常時持出品を確認する機能 など

【意見交換】

- 令和3～4年度の取組結果を踏まえ、今後の継続的な普及拡大に必要な取組や提案などについて、メディア関係者の立場からご意見等ございましたらお願いします。